

「長崎県糖尿病療養指導士会」の地域活動とその意義

長崎大学医学部・歯学部附属病院栄養管理室 東 るみ

「長崎県糖尿病療養指導士会」（略称長崎県CDE会）は、糖尿病患者教育に関する知識及び技術の向上を図り、糖尿病の予防教育を進め地域に貢献することを目的として、平成16年5月に設立されました（設立会員数は94名で、平成18年2月現在129名）。長崎県内のCDEJ資格を有する各職種で構成され、研修会や講演会および会員への会報発行等を行なっています。

会の目的のひとつである地域への貢献として、（独）労働者健康福祉機構長崎産業健康推進センター主催の「第3回はたらく人の健康フェア長崎」に初めて参加しましたので、このフェアにおける活動内容についてご紹介します。

平成17年11月12～13日の期間中に、管理栄養士、看護師、薬剤師、延べ59名のメンバーが参加しました。当日は、今回作成した生活習慣に関するアンケートを用いて調査を行いながら、看護師は血糖および血圧測定、管理栄養士は栄養相談、薬剤師は薬相談を担当しました。2日間の参加者数は男性214名、女性591名の計805名で図1に示すように10才代から80才代と幅広い年齢層であり、約2割が30才代以下でした。参加者の多くは自分の健康について自信を持っていましたが、中には数名、精密検査が必要と思われる方やいわゆる糖尿病予備軍と思われる方が数名見受けられました。全体では、図2、3に示すように血圧、血糖ともに年齢が増すにつれ、高くなる傾向にあります。1次予防が一番必要である30才代以下の若者は参加人数も少なく、関心が低いように思われます。今後、食育の観点からも若いときから健康意識を高め、改善すべき点があればライフスタイルを見直すように啓発していきたいと再認識させられました。

今回、参加したCDEの反省意見として、「アンケート内容の再検討」、「参加目的の周知徹底」、「プライバシーを配慮した会場設定」などがありました。今後の活動に活かしていきたいと考えています。

長崎県は全国一の離島圏をもっており、今後は離島を含め県内の各地へ出向き、地域の健康行事へ積極的に参加し、地域住民と病院及び行政との連携をとりながら、長崎県CDE会の役割を果たしていく必要があると思います。

会員が勤務する施設における活動は、主に糖尿病合併症を防ぐ3次予防、早期発見し治療する2次予防がほとんどですが、1次予防もCDEJに課せられた非常に重要な使命のひとつであり、活躍の場であると思います。

図1．参加者の年齢構成

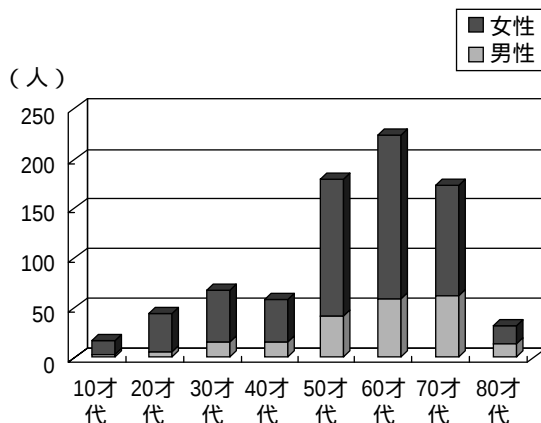


図2．参加者の血糖測定値

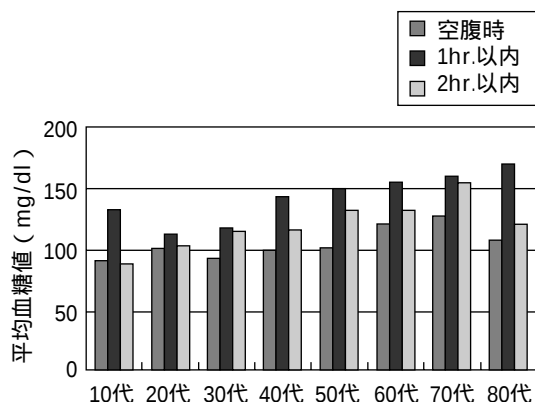


図3．参加者の血圧測定値

